

# 第6学年 外国語科 学習構想案

日 時 令和7年10月16日（木）第2校時  
場 所 人吉市立人吉西小学校 6年2組教室  
指導者 教諭 山口 壮之助  
A L T Mr. David A. Blanchard Jr.

## 1 単元構想

単元名		Unit5 Where is it from? (東京書籍 NEW HORIZON Elementary English Course ⑥ P. 48～59)	
単元の目標		(1) [知識及び技能] 「Where is it from?」「It' s from ～.」などの表現を用いて、身の回りのものの生産国について聞き取ったり紹介したりすることができる。 (2) [思考力, 判断力, 表現力等] 自分の身の回りの物やその生産国について関心をもち、生産国がどの地域にあるのか、またどのような場所かについて、自分の考えを英語で伝えることができる。 (3) [学びに向かう力, 人間性等] 学んだ表現を使って工夫し、身の回りのものやその生産国についてより詳しく伝えようとする。	
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① 「聞くこと」(イ) 【知識】 「Where is it from?」「It' s from ～.」、国名 is in 地域、およびその関連語句について理解している。 【技能】 身の回りのものとその生産国等、具体的な情報のやり取りを聞いて、概要を聞き取る技能を身に付けている。 ② 「話すこと(発表)」(ウ) 【知識】 「Where is it from?」「It' s from ～.」、国名 is in 地域、およびその関連語句について理解している。 【技能】 「Where is it from?」「It' s from ～.」、国名 is in 地域などの表現を用いて、考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。 ③ 「書くこと」「読むこと」 本単元における「読むこと」、「書くこと」については、指導を行うが、記録に残す評価は行わない。	① 自分たちと世界とのつながりをよく知るために、身の回りのものとその生産国についてのやり取りや短い話を聞いて概要を捉えている。「聞くこと」(イ) ② 自分たちと世界とのつながりをよく知るために、身の回りのものとその生産国について簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどをペアやグループで発表している。「話すこと(発表)」(ウ) ③ 本単元における「読むこと」、「書くこと」については、指導を行うが、記録に残す評価は行わない。	① 自分たちと世界のつながりをよく知るために、身の回りのものとその生産国についての情報を聞き取ろうとしている。「聞くこと」(イ) ② 自分たちと世界のつながりをよく伝えるために身の回りのものとその生産国について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどをグループやペアで協力して発表しようとしている。「話すこと(発表)」(ウ) ③ 本単元における「読むこと」、「書くこと」については、指導を行うが、記録に残す評価は行わない。
単元終了時の子供の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
身の回りのものの生産国に関心をもち、音声を聞き取ったり英文を読んだりしながら、世界とのつながりを意識して英語で紹介し合い、自分の言葉で表現しようとする子供。			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
身の回りのものとその生産国について調べ、地図にまとめて紹介しよう。		身の回りのものや出来事に関心をもち、それらが世界とどのようにつながっているかに着目して考え、相手によりよく伝えるために表現を工夫すること。	
指導計画と評価計画(8時間取扱い 本時5／8)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	○ お店や家庭などでの会話の音声から、身の回りのものの生産国などについてのやり取りの概要を捉える。 ・ 国旗カードを用いてゲームを行い、世界の国の名前・国旗に親しみをもつ。 ・ 単元のゴールまでの見通しを持たせるため、学習計画を立てる。	① 「聞くこと」(イ) 【態①】自分たちと世界のつながりをよく知るために、身の回りのものとその生産国についての情報を聞き取ろうとしている。 (行動観察・振り返りシート)

二	5	<p>○ 映像を見たり学習表現を使ったりして、身の回りのものの生産国に関する語彙や表現に親しむ。</p> <p>○ 「Where is it from?」「It's from 〜.」などの表現を用いて、身の回りのものの生産国について伝え合う。</p> <p>○ 身の回りの物やその生産国について想起しやすくするためのマッピングメモを作成する。</p> <p>○ <u>身の回りのものやその生産国について、学んだ表現を使って情報を整理してより詳しく伝え合う。【本時】</u></p> <p>○ 自分たちと世界とのつながりについて紹介できるように、巻末コミュニケーションカードを書く。</p>	<p>①「聞くこと」(イ) 【態①】自分たちと世界のつながりをよく伝えるために身の回りのものとその生産国について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどをグループやペアで協力して発表しようとしている。(行動観察・振り返り)</p> <p>②「話すこと(発表)」(ウ) 【知②】「Where is it from?」「It's from 〜.」、国名 is in 地域、およびその関連語句について理解している。(発言・行動観察) 【思②】自分たちと世界とのつながりをよくするために、身の回りのものとその生産国について簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどをペアやグループで発表している。(行動観察・振り返り)</p> <p>③「書くこと」 ※本單元における「読むこと」、「書くこと」については、指導を行うが、記録に残す評価は行わない。</p> <p>★②「話すこと(発表)」(ウ) 【技②】「Where is it from?」「It's from 〜.」、国名 is in 地域などの表現を用いて、考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。(発言・ワークシート) 【思②】自分たちと世界とのつながりをよく知るために、身の回りのものとその生産国について簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどをペアやグループで発表している。(行動観察・振り返り) 【態②】自分たちと世界のつながりをよく伝えるために身の回りのものとその生産国について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどをグループやペアで協力して発表しようとしている。</p> <p>③「書くこと」 ※本單元における「読むこと」、「書くこと」については、指導を行うが、記録に残す評価は行わない。</p>
三	2	<p>○ 自分たちと世界とのつながりについて知るために、身の回りのものの生産国などを発表し、地図にまとめる。 ※「話すこと」パフォーマンステスト</p> <p>○ 日本と世界との交流などについて考え、単元を通して学習したことを振り返る。</p>	<p>★②「話すこと(発表)」(ウ) 【思②】自分たちと世界とのつながりをよく知るために、身の回りのものとその生産国について簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどをペアやグループで発表している。(個人発表・グループ発表) 【態②】自分たちと世界のつながりをよく伝えるために身の回りのものとその生産国について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどをグループやペアで協力して発表しようとしている。(振り返りシート)</p> <p>③「書くこと」 ※本單元における「読むこと」、「書くこと」については、指導を行うが、記録に残す評価は行わない。</p>

## 2 単元における系統及び子供の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)
<p>小学校学習指導要領第6学年 2内容〔5学年及び第6学年〕</p> <p>〔知識及び技能〕</p> <p>(1) 英語の特徴やきまりに関する事項</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項</p> <p>ア 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。</p> <p>(3) 言語活動に関する事項</p> <p>ア 聞くこと</p> <p>(ウ) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真を参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。</p> <p>ウ 話すこと〔発表〕</p> <p>(ウ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。</p>

## 教材・題材の価値

本単元は、「Where is it from?」「It's from ~.」などの表現を用いて、身の回りのものの生産国について紹介し合う活動を通して、英語による簡単なやり取りや発表を行うものである。児童は、自分の興味関心のあるものの生産国を調べ、それを英語で伝える経験を通して、「英語で伝える楽しさ」や「世界とのつながり」に気付くことができる。言語面では、英語での質問と応答の基本表現を繰り返し使用することで、聞く力・話す力の基礎を育成する。また、国名や地域名に触れることにより、社会的な知識ともつながり、学習の広がり生まれる。さらに、発表活動では、自分の考えや好きなものを英語で伝えようとする中で、表現の工夫や他者への配慮が求められる。友達の発表に耳を傾けることで、多様な文化や価値観に触れ、他者理解の姿勢も育まれる。このように本単元は、言語活動を通じて、英語の基礎的な力だけでなく、国際理解や自己表現力、協働する態度などを総合的に育てることができる題材である。

## 本単元における系統

【第5学年】Unit 8 Who is your hero ?  
・あこがれの人について紹介し合おう。

【第6学年】Unit 2 My Daily Schedule  
・日常生活について紹介し合おう。

【第6学年】Unit 5 Where is it from?  
・世界とのつながりを考え、グループで発表しよう。

【第6学年】Unit 4 Let's see the world.  
・世界の行きたい国について紹介し合おう。

## 子供の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況  
外国語アンケートより

（児童19人、単位：％）

「話すこと」に係る内容	とても	まあまあ	あまり	ない
外国語（英語）の授業は好きですか。	36.8	31.6	31.6	0
英語を使って話したり聞いたりするのは好きですか。	26.3	36.8	31.6	5.3
外国語の授業で、よく話す活動（ペア活動など）のとき、進んで英語を話そうとしていますか？	36.8	47.4	15.8	0
英語をもっと話せるようになりたいですか？	73.7	15.8	10.5	0

外国語の授業で分からないことがあったときにどうしていますか？（複数回答）

・先生やALTに聞く（11） ・友達に聞く（11） ・教科書やPicture Dictionaryで調べる（7） ・インターネットなどで調べる（0）

■本単元の研究の視点に関する意識の状況

（児童19人、単位：％）

「学び」に係る調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
「なぜ」「どうして」という「問い」をもちながら学習しているか。	36.8	47.4	10.5	5.3
自分の考えを主体的に友だちや先生に伝えているか。	26.3	36.8	31.6	5.3
課題を解決するために、友だちと話し合っているか。	47.4	31.6	15.7	5.3
友だちの意見をもとに自分の考えを見直しているか。	31.6	47.4	15.7	5.3

### 考察

（資質・能力に関して）

多くの児童が英語を話すことに興味をもち、もっと話せるようになりたいと感じている。ペア活動にも積極的で、英語を使うことに前向きな姿勢が見られる。一方で、授業が「あまり好きではない」と感じている児童もあり、内容や進め方の工夫が必要である。意欲を引き出すためには、関心に応じた学習環境づくりが求められる。

また、分からないときに先生や友達に聞く姿が多く見られる一方で、自分で調べる力は十分とは言えず、主体的な学びの育成が課題である。今後は、Picture dictionaryやICTを活用した調べ学習を取り入れ、自ら学ぼうとする力を育てていくことが大切である。

（学びに関して）

多くの児童が「なぜ」「どうして」と問いをもちながら学習に取り組み、友達と協力して課題に向き合う姿勢が身に付いてきていることが分かった。特に、課題解決のために話し合う姿が多く見られ、協働的な学びが定着しつつある様子がうかがえる。一方で、自分の考えを進んで伝え、友達の意見を取り入れて考えを見直すことについては、まだ十分にできていない児童もあり、学びを深める力には課題が残っている。今後は、自分の考えを言葉にして伝える力や、他者の意見から新たな気付きを得る力を育てるために、対話的な学習の機会をさらに充実させていく必要がある。

## 3 指導に当たっての留意点

### 視点1 主体的な学びを支え、学びの本質へとつながる子供の問いを生み出す導入の工夫

- 児童が「どんなふうに詳しく言えるか」を想像できるように具体的な紹介モデルや表現例を提示する。
- 学習のねらいにつながる「問い」が児童の中に生まれるように、教師が情報を限定し、写真・実物・会話などの仕掛けを行うことで、児童の思考を引き出す。

### 視点2 子供を深い学び・確かな学びへと導くゆさぶり発問や活動の設定

- お互いの考えを比べたり考え直したりできるようにするために、児童が友達と考えを伝え合い、聞き合う活動を取り入れて、学びを深められるようにする。
- 児童がこれまでに学習した表現の中から使えそうなものを考え、目的に応じて工夫しようとする姿勢を育てるために、「どこかで聞いたことのある表現はなかった？」と問い、既習表現の活用を促す。

#### 4 本時の学習

(1) 目標 身の回りのものやその生産国について、学んだ表現を使って工夫し、より詳しく伝え合うことができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◆発問、◇予想される子供の発言)	○指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	8分	<b>1 課題をつかむ。</b> (1) 挨拶を通して、学習しやすい雰囲気をつくる。 ①Greeting ②Good Reaction ③Let's Chant (2) 本時のめあてを確認する。 ①Small Talk ◇This is my cap. ◇It's from Vietnam. ◇Vietnam is a nice country. ◆Tell me more. ◇もっと詳しく言えたらいいな。 ◇興味を持ってもらえるように伝えたいな。 ②前時の学習を振り返り、今日のめあてを確認する。	○児童が英語に親しみ、学習に前向きな気持ちをもてるように、ALTと楽しい雰囲気を作り取りをし、チャンツを使って児童と一緒に発音練習を行うことで、リズムや発音に慣れさせる。 <b>【視点1について】</b> ○児童が「どんなふうに詳しく言えるか」を想像できるよう具体的な紹介モデルや表現例を提示し、そこから児童の気付きや問い、さらにALTの「Tell me more」という言葉を通してめあてにつなげる。
		<b>【学習課題】身の回りのものやその生産国についてより詳しく伝えるにはどうすればいいかな。</b>	
展開	30分	<b>2 課題の解決に向けて活動する。</b> 身の回りのものやその生産国についてより詳しく伝える。 ①やり取り1回目 ◆どんなことを言えばいいかな。 ◇「毎日使っている」と言いたいです。 ◇「△△に行きたい」と言いたいです。 ②やりとり2回目 ・相手を変えて伝え合う。 ③中間指導 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <b>ゆさぶり発問や活動</b>  <b>◆ どこかで聞いたことがある表現はありませんでしたか。</b>            ◇Unit 2で学習した「always、usually、sometimes」が使えそう。            ・難しい表現を確かめ、練習する。            ・必要に応じて全体練習や個別練習を行う。            ④やり取り3回目            ・相手を変えて伝え合う。            ⑤やり取り4回目            ・最初のペアで再度やり取りをする。         </div> <b>3 学習のまとめをする。</b>	○前時に作成したマッピングメモを活用してどんな表現を付け加えればよいかを考え、全体で共有する。 ○児童が活動に積極的に参加できるように、個々の様子を見ながら声かけを行う。 ○児童がよい表現や上手なところに気付けるように、上手なペアに発表させて聞く。 <b>【視点2について】</b> ○児童がこれまでに学習した表現の中から使えそうなものと考え、目的に応じて工夫しようとする姿勢を育てる発問をすることで既習表現の活用を促し、主体的な言語使用につなげる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <b>【具体的評価規準】思②</b>            ○自分たちと世界とのつながりをよく知るために、身の回りのものとその生産国について簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどをペアやグループで発表している。            (行動観察・振り返り)         </div> <b>【到達していない子供への手立て】</b> ○自信をもって発話できるように、ペア活動を設定し、必要に応じて個別に支援する。
		<b>【まとめ】詳しく伝えるためには、これまでに学習した表現を活用して、内容を付け加えるとよい。</b>	
終末	7分	<b>4 振り返りをする</b> ・身の回りのものがどこで生産されたのか、“It's from ~.”を使って伝えることができました。 ・“I always / usually / sometimes ○○ it.”を使って、詳しく伝えることができました。	○振り返りの視点を与える。 ○児童が自分のよいところや直すところに気付き、自信を持って次の学習に取り組めるように、ALTや指導者の気付きをわかりやすく伝える。

〔前提：授業の終末に、つぶやいてほしい子供の言葉〕

- ・マッピングメモに学習したことを付け加えて生産国の名前やその国の特徴を説明できました。
- ・詳しく話せるようになったので、次のUnitでも前に学習した表現を組み合わせ、友だちに伝えたいです。

## 【板書計画】

Unit 5 Where is it from?

㊦ 身の回りのものやその生産国についてより詳しく伝えるにはどうすればいいかな。

Today's menu

- 1 Greeting
- 2 Good Reaction
- 3 Let's Chant
- 4 Small Talk
- 5 Let's Try
- 6 Reflection Time

紹介カード

㊧ 詳しく伝えるためには、これまでに学習した表現を活用して、内容を付け加えるとよい。

㊦ 【これまでの学習での表現】

My treasure is～

always、usually・・・

ate、used・・・

㊨ 【Reflection Time】

## 【ICT活用計画】

- ・ 授業の導入では、電子黒板に Good Reaction（フラッシュ型教材）や Chant を使って復習ができるようにする。

## 【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

身の回りのものの生産国に関心をもち、音声を聞き取ったり英文を読んだりしながら、世界とのつながりを意識して英語で紹介する。また、伝え合ったことを英語で書き、写真やイラストを付けて、「世界とのつながりカード（巻末カード）」を作る。